

『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は
「オーストラリア」



第10号(2008年10月20日)

オーストラリアの基本情報

オーストラリア連邦は世界最大の島国であり、また国土面積では世界で6番目に大きな国です。オーストラリア大陸は世界で最も歴史のある大陸の一つであり、約6万年以上も前から人類が生活していたと言われています。オーストラリアには多種多様な動植物が生息しており、オーストラリアでしか見られない動物や植物も数多く存在します。その種類は実に全世界の動植物の10%を占めています。オーストラリア経済は世界で14番目の規模(2007年)を誇り、一人当たりGDPで見ると世界で15番目に豊かな国となっています。オーストラリアは過去60年間に渡って200以上の国から650万人以上の移住者を受け入れてきたため、多種多様な言語や文化を持つ人々が存在する多民族国家であり、今日のグローバル経済における強みの一つとなっています。

- 首都: キャンベラ
- 面積: 769万2,024 km²(日本の約20倍)
- 人口: 約2,063万人(2006年4月現在)
- 言語: 英語
- 宗教: キリスト教68%、無宗教15%
- 一人あたりGDP: 50,269豪ドル(2007年)
*1豪ドル=91.58円(2008年3月末)
- 実質GDP成長率: 3.3%(2007年)



出所: 外務省、オーストラリア外務省、オーストラリア大使館

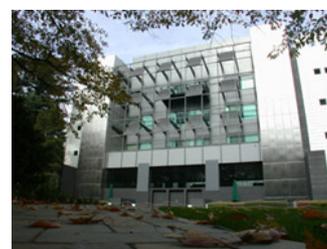
大使館情報

所在地: 東京都港区三田2-1-14

* オーストラリア大使館は非常にモダンな造りの建物です。
これは、本国の著名な建築設計会社により設計されたものだそうです。

面会者: オーストラリア大使館
秋保順子様(インベストメント・マネージャー)
木村和人様(主席商務官)

今回お話を伺ったのは、オーストラリア大使館の秋保様と木村様です。
オーストラリアという国を知り尽くしたお二人から、我々の知らなかった
興味深いお話をいろいろと伺うことができました。
(2008年8月21日に訪問)



(写真提供: オーストラリア大使館)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『この国どんな国？』

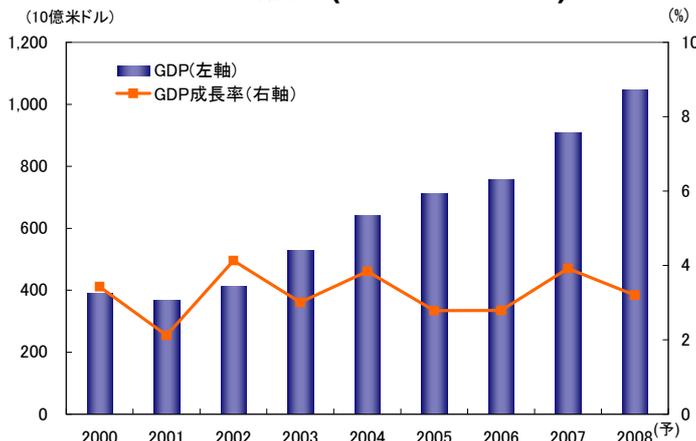
各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は
「オーストラリア」

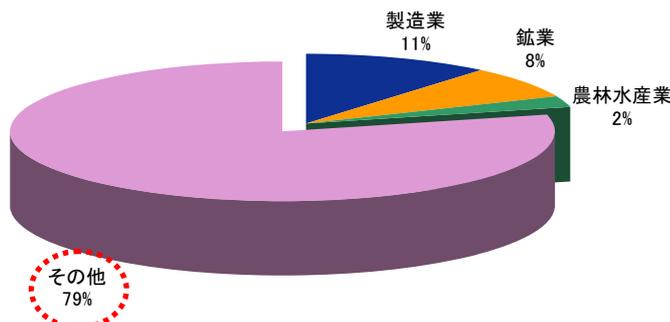
経済の概況

1. GDPとGDP成長率(2000年-2008年)



オーストラリア経済は堅調な個人消費と資源産業に代表される民間投資の伸びに支えられ、17年間に渡って安定した経済成長を続けてきました。過去10年間の年平均成長率は約3.5%で、先進7カ国の平均成長率約2.4%を大きく上回っています。 出所:IMF

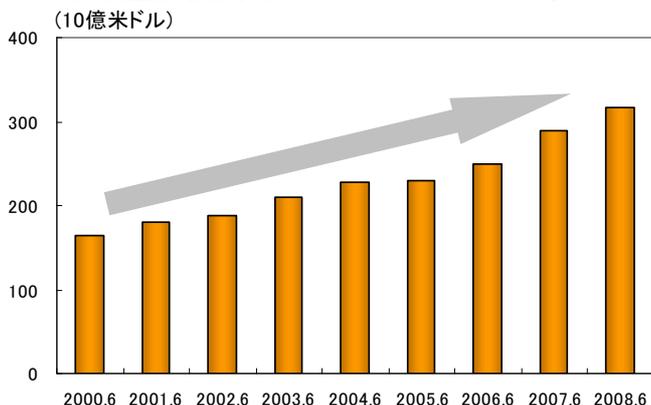
2. GDPの業種別構成比(2007年)



オーストラリアには豊富な天然資源があり、資源産業が依然として経済の重要な役割を果たしています。しかしながら、鉱業がGDPに占める比率は約8%と低く、不動産や金融、通信などのサービス産業が全体の約79%と経済の主要な部分を占めています。 出所:オーストラリア統計局

強い競争力

1. 海外直接投資額(2000年-2008年6月)



オーストラリアは海外からの投資に広く門戸を開いており、2008年までの8年間で海外直接投資は約2倍に増えました。「外国直接投資信用指数2007」では、世界で11番目に海外直接投資に好ましい国と位置づけられています。 出所:オーストラリア統計局、AT Kearney

2. 強靱な経済基盤

景気循環に対する経済回復力(2002年-2006年)

	1位	2位	3位
2002年	オーストラリア	ノルウェー	英国
2003年	オーストラリア	マレーシア	デンマーク
2004年	オーストラリア	アイスランド	マレーシア
2005年	オーストラリア	デンマーク	中国
2006年	オーストラリア	米国	デンマーク

2002年から2006年まで5年連続で、オーストラリアは世界で最も経済回復力のある国と位置づけられました。また、国際通貨基金(IMF)は、2008年の国別経済報告書の中で、「オーストラリアは、経済のファンダメンタルズが健全であるため、世界的な景気減速に耐え、物価上昇圧力に打ち勝つことができる」と述べています。

出所:IMD World Competitiveness Yearbook 2006、IMF



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『この国どんな国？』

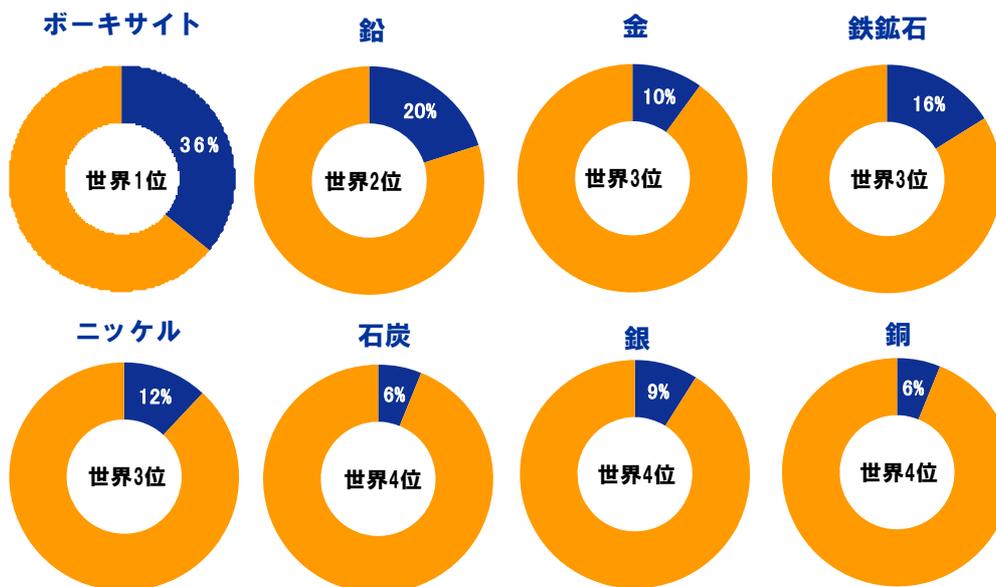
各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は
「オーストラリア」

経済を支える資源産業

1. 主な鉱物資源の世界生産シェア(2006年)



オーストラリアの天然資源は非常に種類が豊富で、生産量においてもそれぞれが世界トップクラスの規模を誇ります。

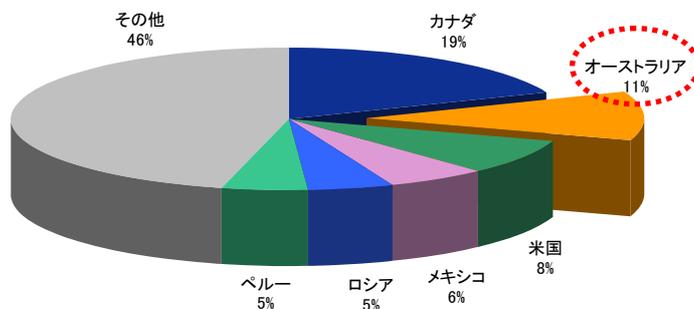


2. 鉱業の輸出金額(2003年-2007年)

	金額 (10億豪ドル)	シェア
2003	31.2	27.1%
2004	28.6	26.2%
2005	41.1	32.4%
2006	57.7	37.8%
2007	62.7	37.3%

オーストラリアは鉱物資源を日本や中国をはじめ世界中に輸出しています。鉱業がGDPに占める比率は約8%とわずかですが、オーストラリア全体の輸出金額に占める鉱業のシェアは約37%と高く、オーストラリア経済を輸出面から支える非常に重要な産業となっています。

3. 世界の探鉱費用(2006年)



2006年の世界全体の探鉱費用は、前年比47%増の約75億米ドルと過去最高となりました。そのうちオーストラリアにおける探鉱費用は約7億5千万米ドルで、世界全体の探鉱費用に占める割合はカナダに次いで第2位の約11%でした。探鉱費用の増加に伴い、今後も鉱物資源の生産量は世界需要の高まりに応じて増加するものと見られています。

出所: Geoscience Australia, Metals Economics Group



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『この国どんな国？』



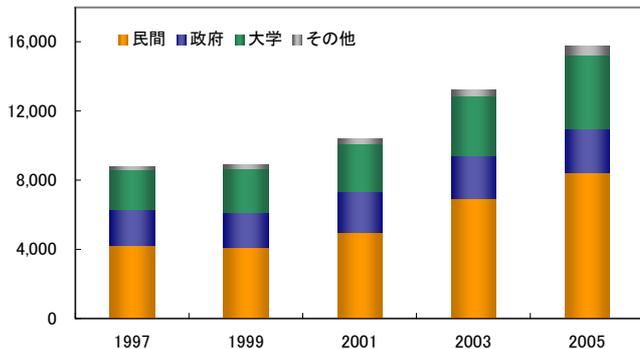
各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、
様々な国の本当の姿をお届けします。

今回ご紹介する国は
「オーストラリア」

高度な研究開発力

1. 研究開発費(1997年-2005年)

(100万米ドル)



オーストラリアは世界をリードする最先端の研究を積極的に推進しており、民間企業や政府が研究開発に多額の投資を行っています。GDPに占める研究開発の公費の割合は、他の先進諸国を上回る水準となっています。

出所: オーストラリア統計局

2. ノーベル賞の受賞者数

名前	分野	受賞年
ウィリアム・ヘンリー・ブラグ	物理学	1915
ウィリアム・ローレンス・ブラグ	物理学	1915
ハワード・ウォルター・フローリー	生理学、医学	1945
フランク・マックファーレン・バーネット	生理学、医学	1960
ジョン・カルー・エクレス	生理学、医学	1963
アレクサンダー・ミカイロビッチ・プロコロフ	物理学	1964
バーナード・カツツ	生理学、医学	1970
パトリック・ホワイ	文学	1973
ジョン・ワーカップ・コーンフォース	化学	1975
ピーター・チャールズ・ドエティ	生理学、医学	1996
ハリーJ. マーシャル	生理学、医学	2005
J. ロビン・ワレン	生理学、医学	2005

オーストラリアの歴代ノーベル賞受賞者は12人ですが、人口一人当たりのノーベル賞数は世界トップクラスの高い水準にあります。これは、オーストラリアの高度な研究開発力を裏付けるものであり、今後の国際競争力にも大きな影響を及ぼすと考えられます。

出所: オーストラリア投資促進庁

観光・スポーツ

1. 観光産業

オーストラリアは観光産業の育成に力を入れており、政府観光局主導のもと、積極的な観光誘致を行っています。観光客の数は年々増加し、現在は年間約500万人の観光客が訪れています。観光業は最も急成長を

遂げた産業の一つであり、その収入はGDPの約4.5%を占め、年間約160億豪ドルを超える外貨を稼ぐ主要産業となっています。



2. スポーツの振興

オーストラリアは国をあげて積極的にスポーツの振興を行っています。AIS(オーストラリア国立スポーツ機関)は1981年に設立されたアスリートの養成機関で、最新のトレーニング施設と一流のスタッフを兼ね備え、トップアスリートの発掘、育成を行っています。2008年の北京オリンピックでオーストラリアは計46個のメダルを獲得、人口当たりのメダル数では圧倒的な世界一であり、アスリートの能力の高さを世界に示しました。



訪問を終えて

オーストラリアは、世界的な資源需要の拡大とともにこれまで安定した成長を続けてきましたが、足元では個人消費や住宅投資の低迷を背景に景気は減速傾向にあります。このため、豪州準備銀行は6年9ヶ月ぶりに利下げを行いました。これを受けて、為替レートも対主要通貨で軒並み下落しています。個人消費と住宅投資の回復にはしばらく時間を要するかもしれませんが、一方で輸出は引き続き好調であり、オーストラリア経済は内需の低迷を好調な外需が下支えし、中長期的には相対的に底堅く推移するものと考えられます。

出所: オーストラリア政府観光局、AIS、各種報道資料

(これらは全て2008年9月末現在の情報です)

取材・編集: スパークス・アセット・マネジメント(株) 事業開発部



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。